

2015年度 紙パック回収率



2015年度の紙パック回収率は
43.1%でした。

紙パックリサイクルに関する情報の収集と社会への提供のために、1995年から実施している「飲料用紙容器リサイクルの現状と動向に関する基本調査」が、2016年も6月～10月に実施され、2015年度のリサイクル状況が明らかになりました。

2015年度の紙パック全体の回収率は43.1%（前年度比で1.6ポイント減）、使用済紙パック回収率は34.2%（1.5ポイント減）となりました。

近年の使用済紙パックの回収ルート多様化に伴い、2015年度も古紙原料問屋や再生紙メーカーによる直接回収を調査対象に加えしました。これらの回収量はマテリアルフローの「集団回収等」に含めています。

※2015年度実態調査では、紙パックメーカー9社・飲料メーカー305社・市区町村1,734・小学校2,034・スーパーマーケット等1,029・市民団体および福祉施設22・再生紙メーカー31社等をアンケート調査対象に、また4か所をヒアリング調査対象としました。なお、福島原発事故の影響により、一部地域について実施を控えています。
※「産業損紙・古紙」とは、紙パック製造工場や飲料工場で発生した損紙や古紙をいいます。
※「損紙」とは紙パック製造工場や飲料工場で飲料充填前に発生した端材などを、「古紙」とは飲料充填後に発生した紙パックをいいます。また、「使用済紙パック」とは、家庭、学校、店舗、事業所などで飲み終わった紙パックを指します。

2015年度の紙パック回収率

紙パック回収率
(産業損紙・古紙を含む)

43.1%
(2014年度 44.7%)

=国内紙パック回収量÷紙パック原紙使用量
=98.3千トン / 228.3千トン

使用済紙パック回収率
(使用された紙パック)

34.2%
(2014年度 35.7%)

=使用済紙パック回収量÷飲料メーカー紙パック出荷量
=67.0千トン / 196.0千トン

市町村回収や集団回収の
紙パック取引価格が
上昇しています。

紙パック古紙は、紙の繊維が長く強いことなどから、良質の再生紙原料に位置付けられており、比較的高値で取引されています。

紙パックの取引価格は、自治体ごとに決め方がさまざまなので、標準的な価格を出すのは困難です。ここでは紙パック単独の価格で、取引価格以外の付加条件がつかないものを対象に、相手先に来てもらう引渡価格と、相手先へ持ち込んだときの持込価格に分けて、市町村回収(東京特別区の回収を含む)と集団回収の平均を集計しました。

これらの回収の主な取引先は古紙回収業者と古紙原料問屋です。市町村や集団回収について、全ての取引の平均価格をみると前年度よりもやや高値で取引されています。

紙パック古紙の平均取引価格

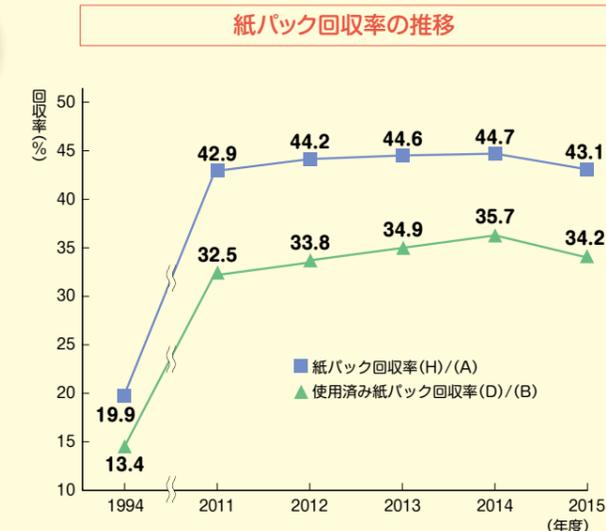
年度		2012	2013	2014	2015	
市町村回収	古紙回収業者	引渡価格	6.8	7.0	6.9	8.0
		持込価格	6.7	6.5	7.0	7.7
	古紙原料問屋	引渡価格	9.2	8.3	9.0	8.4
		持込価格	8.2	8.4	9.3	9.4
	再生紙メーカー	引渡価格	9.4	6.4	8.6	6.8
		持込価格	10.9	9.0	12.0	7.8
平均価格		7.6	7.4	7.9	8.3	
集団回収	取引先不問	引渡価格	4.9	5.1	5.2	5.5
		持込価格	5.3	5.7	6.0	5.7
	平均価格	5.0	5.2	5.4	5.6	

(円/kg)

2015年度の紙パック回収量は
98.3千トンでした。

国内紙パックの回収率は、右の図のように推移しています。回収量と回収率の詳細は下の表のとおりです。

2015年度の国内紙パック回収量は、前年度より6.1千トン(5.8%)減少し98.3千トンになりました。このうち2.0千トンは紙パックメーカーや飲料メーカーでの産業損紙・古紙の減少によるものです。また、使用済紙パック回収量は4.1千トン(5.8%)減少し67.0千トンでした。ここ数年、増加していた家庭系回収量が減少したことが効いています。



主要データの推移 (単位:千トン)

区分	1994年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	対前年	
飲料用紙パック原紙使用量(A)	216.0	246.6	242.9	238.2	233.7	228.3	-2.3%	
紙パックメーカー産業損紙発生量	16.5	35.1	36.2	33.5	31.4	29.7	-5.4%	
飲料メーカー産業損紙等発生量	-	3.3	2.4	2.4	2.2	1.9	-11.7%	
飲料メーカー飲料用紙パック出荷量(B)	197.9	208.3	204.3	202.1	199.3	196.0	-1.7%	
家庭系(C)	168.7	184.8	180.3	178.5	176.2	176.2	0.0%	
事業系出荷量	29.2	23.5	24.0	23.6	23.1	19.8	-14.1%	
学校給食	10.7	11.8	11.9	11.8	11.7	11.6	-1.5%	
飲食店等	18.5	11.7	12.1	11.7	11.3	8.3	-27.2%	
使用済紙パック回収量(D)=(E)+(F)	26.5	67.7	69.1	70.6	71.1	67.0	-5.8%	
家庭系(E)	25.9	56.2	57.2	59.4	60.4	56.3	-6.8%	
店頭回収量	13.8	33.0	32.6	32.3	31.9	30.4	-4.6%	
市町村回収量	4.3	13.9	13.7	13.6	12.8	12.2	-4.8%	
集団回収等量	7.8	9.3	10.9	13.5	15.7	13.7	-12.8%	
市町村把握	7.8	8.6	8.7	9.1	8.4	8.8	4.8%	
上記を除く独自回収	-	0.7	2.2	4.4	7.3	4.9	-33.0%	
事業系(F)	0.6	11.5	11.9	11.2	10.7	10.7	0.1%	
学校給食	0.6	9.2	9.6	9.3	8.8	8.8	-0.6%	
飲食店等	-	2.3	2.3	1.9	1.9	2.0	3.3%	
産業損紙・古紙紙パック回収量(G)	16.5	38.1	38.4	35.7	33.3	31.3	-5.9%	
紙パックメーカー	16.5	35.1	36.2	33.5	31.4	29.7	-5.4%	
飲料メーカー	-	3.0	2.2	2.2	1.9	1.7	-14.2%	
国内紙パック回収量(H)=(D)+(G)	43.0	105.7	107.5	106.3	104.4	98.3	-5.8%	
紙パック古紙輸入量	-	14.0	11.4	12.8	18.6	19.8	6.2%	
紙パック総受入量	43.0	119.7	118.8	119.1	123.0	118.1	-4.0%	
紙パック再資源化量	30.1	95.7	95.2	93.7	95.4	95.1	-0.3%	
回収率	紙パック回収率(H)/(A)	19.9%	42.9%	44.2%	44.6%	44.7%	43.1%	-1.6ポイント
	使用済紙パック回収率(D)/(B)	13.4%	32.5%	33.8%	34.9%	35.7%	34.2%	-1.5ポイント
	家庭系使用済紙パック回収率(E)/(C)	15.4%	30.4%	31.7%	33.3%	34.3%	31.9%	-2.4ポイント

※紙パック再資源化量=紙パック総受入量×歩留率。歩留率は、2001年度以降についてはアンケートにより求めています。
※1994年度の産業損紙発生量にはアルミつき紙パックを含みます。
※100トン未満を四捨五入しているため、合計が合わない箇所があります。また、同じ理由により表中の数値から回収率や前年度比を計算すると合わない箇所があります。

2015年度 紙パックマテリアルフロー



2015年度の紙パックリサイクルの全体像をマテリアルフローで示したものです。

※単位：千トン
 ※()内は2014年度との差です。
 ※四捨五入しているため、合計と一致しない箇所があります。

